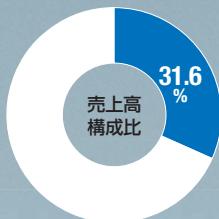


古河機械金属グループの全体像	1
Close-Up 金属事業	2
株主の皆様へ	3
事業部門別の概況	5
特集 産業・社会の基盤づくりを支える 「ロックドリル」	9
連結決算の概要	11
PICK UP (TOPICS、INFORMATION)	13
会社概要及び株式の状況	14



# あらゆるシーンで社会を支えています。

## 機械

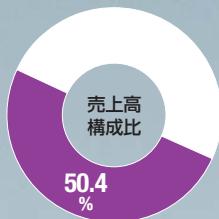


### 都市づくりを「機械」で支える

産業機械事業 古河産機システムズ(株)  
ロックドリル事業 古河ロックドリル(株)  
ユニック事業 古河ユニック(株)

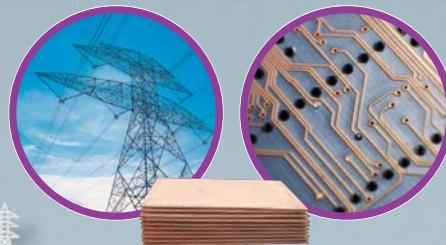


## 金属

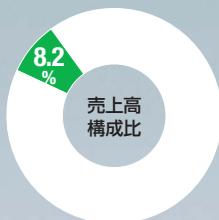


### 社会インフラを「銅」で支える

金属事業 古河メタルリソース(株)



## 電子化成品



### 豊かな暮らしを「素材」で支える

電子事業 古河電子(株)  
化成事業 古河ケミカルズ(株)



## 不動産・燃料その他



### ビジネスシーンを「サービス」で支える

不動産事業 古河機械金属(株)  
燃料事業 古河コマース(株)



## 金属事業

### 社会インフラを「銅」で支える ～「銅」の安定供給に注力～

創業時からの事業である金属事業では、電線などに用いられる電気銅を販売しています。1973年に足尾銅山が閉山を迎えるまでは自社で採掘から製錬まで行っていましたが、現在は海外から銅鉱石を輸入し、当社を含む複数の企業が出資する共同製錬所で委託製錬を行っています。

電気銅を安定的に供給するために、当社はカナダのハックルベリー鉱山、インドネシアのバツ・ヒジャウ鉱山に出資するなど、銅鉱石の調達ルート開拓にも注力しています。また、

日比共同製錬(株)

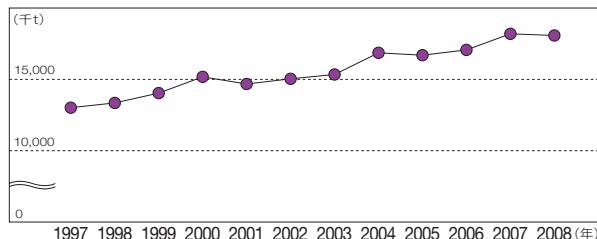
製錬については小名浜製錬(福島県)、日比共同製錬(岡山県)の東西2拠点による相互補完体制を構築し、全国のユーザーに安定供給しています。

#### C O L U M N

### 銅の需要

銅は、通電性が高く、抗菌性に優れるなどの特性から、電線だけでなく、電子基板や硬貨などさまざまな分野で幅広く利用されています。World Bureau of Metal Statistics(WBMS)\*が発表しているデータによれば、2008年には世界中で約1,800万トンもの銅地金が消費されました。1997年からの11年間で

#### 銅地金消費量推移



消費量は約500万トン増加し、中長期的に見ても銅の需要は拡大しており、社会基盤を支えています。

\* 銅のほかニッケル、亜鉛、金、銀などの市況動向をとりまとめ、各業界に情報を提供しているイギリスの民間団体(金属業界において、WBMSの統計はもっとも一般的な指標の一つ)

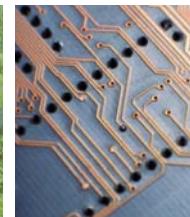
#### 銅の用途例



10円玉をはじめとする硬貨



自動車の内部配線(ワイヤハーネス)



電気製品の主要部品であるプリント基板



代表取締役社長 相馬 信義

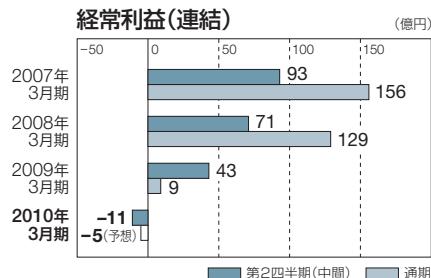
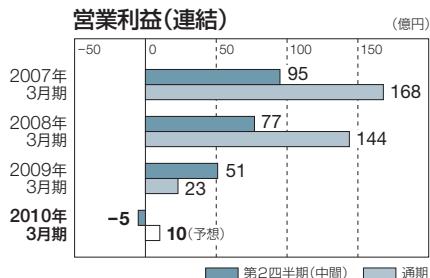
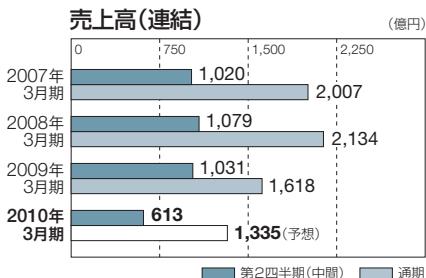
株主の皆様には、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。ここに第143期第2四半期連結累計期間(2009年4月1日から2009年9月30日まで)の決算の概要などにつきましてご報告申し上げます。

## 当該期間中の経営環境と業績について

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、昨年来の世界的金融危機に伴う景気の悪化に、一部、持ち直しの動きがみられましたが、依然として厳しい状況が続いております。

このような環境において、当社グループでは工場の一時帰休や人件費などの抑制を行い、コスト削減に努めましたが、機械部門・金属部門を中心として全部門で減収となった結果、当該期間の売上高は、613億78百万円(対前年同期比41.7億79百万円減)となりました。

利益面では、工場操業度の低下により、機械部門で大きく採算が悪化したことから、営業損益は5億4百万円の損失(前年同期は51億55百万円の利益)、経常損益は11億34百万円の損失(前年同期は43億39百万円の利益)となり、当該期間の純損益は8億39百万円の損失(前年同期は15億60百万円の利益)となりました。当期の中間配当につきましては、誠に遺憾ながら実施いたしませんので何卒ご了承賜りますようお願い申し上げます。



(2010年3月期通期予想については、2009年11月5日発表時点のものです)

## 通期の業績見通しについて

通期の業績見通しにつきましては、前回(2009年8月5日)発表の業績予想においては第3・第4四半期で銅価4,800米ドル/トンを前提としておりましたが、直近の状況を考慮し5,500米ドル/トンへ変更いたしました。この結果、前回発表予想に比べ金属部門で増収となるため、全体として売上高を上方修正いたしました。しかしながら、機械部門では、国内需要の低迷と輸出の不振など、厳しい状況が続くものと見込まれるため、営業利益及び経常利益を下方修正いたしました。当期純利益につきましては、資産売却益などを見込み、前回発表通りとしております。

なお、業績見通しの下方修正を踏まえ、誠に遺憾ながら期末予想配当金についても無配とさせていただきます。

## 株主の皆様に向けて

当社グループは、中期経営計画の対象期間である2008年度から2010年度を、各事業の再構築を進め、次の成長へ向

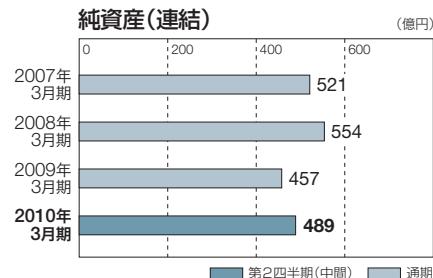
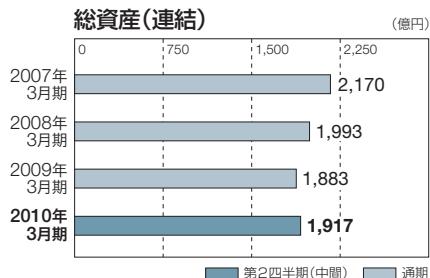
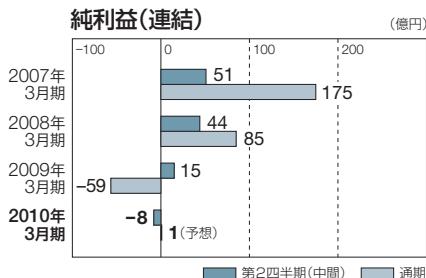
けた基盤づくりを促進する期間と決めました。『成長への挑戦』を合言葉に、改めてメーカーとしての原点に立ち、ハイレベルの生産・販売・サービス体制を目指す「本格的なモノづくり・仕組みづくり」を追求しております。先行き不透明感から、足元では依然厳しい状況が続いておりますが、競合他社に対して優位に事業を展開すべく、地域毎・製品毎の拡販政策を抜本的に見直しながら、機械事業の海外展開を推進するとともに、生産性向上・コストダウンを核とした生産システムの改革などを実行しております。また、より企業価値を高めるべく、環境対応・省エネルギーなどの世界的なニーズについては常に動向を注視し、それに沿った独自製品の研究開発を進めております。

今後も、効率的な経営体制の構築に注力し、豊かな社会づくりに貢献する企業を目指して活動を継続いたします。また、社会・企業倫理の面からも真摯で責任ある企業活動を行うべく、コーポレートガバナンスの充実にも力を入れてまいります。株主の皆様には、今後ともよろしくご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2009年12月

代表取締役社長

相馬 幸義

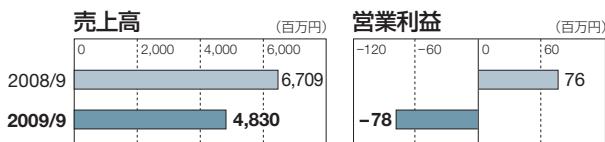


## 機 械



機械部門の売上高は194億16百万円(対前年同期比174億70百万円減)、営業損失は21億57百万円(前年同期は25億12百万円の利益)となりました。

### 産業機械事業



産業機械事業では、橋梁製品は売上を伸ばすことができませんでしたが、ポンプ製品で官需の設備プラント向けが低調となり、破碎機類、スクリーン等も民需の不振により受注は大きく減少しました。このため、売上高は48億30百万円(対前年同期比18億78百万円減)、営業損失は78百万円(前年同期は76百万円の利益)となりました。



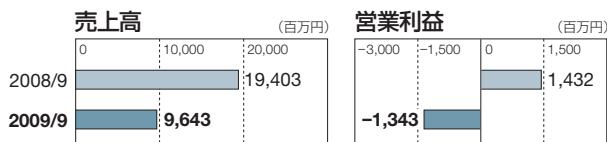
スラリーポンプ



粉砕機



### ロックドリル事業



ロックドリル事業では、国内売上が、公共工事削減や民間需要の減少から全般的に不調となりました。海外売上も中東の一部と中国では改善の兆しがあったものの、それ以外の地域、特に米国、欧州では需要の低迷が続きました。このため、売上高は96億43百万円(対前年同期比97億60百万円減)、営業損失は13億43百万円(前年同期は14億32百万円の利益)となりました。



油圧ブレーカ

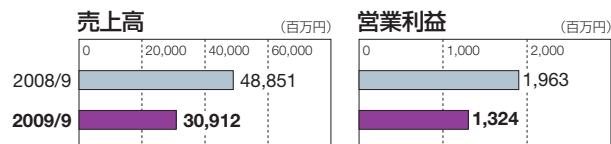


油圧クローラドリル

## 金属



金属部門の売上高は309億12百万円(対前年同期比179億38百万円減)、営業利益は13億24百万円(対前年同期比6億38百万円減)となりました。



海外銅相場は4月に3,963米ドル/トンでスタートした後、米国の経済指標の改善や中国の需要増加期待、LME在庫の減少を背景に強含みに推移しました。6月前半から7月半ばまでは5,000米ドル/トンを挟んだレベルで推移し、さらに米国の国内経済指標が好転したことを背景に景気回復期待が台頭したことから騰勢が続き、6,136米ドル/トンで9月の取引を終えました。

国内建値は4月に45万円/トンで始まり、9月末には59万円/トン、第2四半期累計期間平均では55万円/トンとなりました。国内銅需要は本格的な回復には至らず、電気銅の販売量は、44,813トン(対前年同期比3,736トン減)にとどまりました。



銅の製錬工程



電気銅

## ユニック事業



ユニック事業では、国内市場において、普通トラック登録台数が対前年同期比48%にとどまり、海外市場でもロシアをはじめ、世界各地で需要の回復が見込めない状況が続きました。このため、売上高は49億41百万円(対前年同期比58億31百万円減)、営業損失は7億35百万円(前年同期は10億3百万円の利益)となりました。



ユニッククレーン「U-can ECO」



マイクロラックレーン

## 電子化成品



電子化成品部門の売上高は50億29百万円(対前年同期比18億18百万円減)、営業利益は59百万円(対前年同期比4億39百万円減)となりました。

### 電子事業



電子事業では、高純度金属ヒ素を原料とするガリウムヒ素で新たな需要として中国第3世代携帯電話向けの電子デバイスが立ち上がったほか、光デバイス向けの市場にも動きが見え始めましたが、本格的な需要回復には至りませんでした。結晶製品の需要も先行き不透明な状況が続き、売上高は25億88百万円(対前年同期比9億85百万円減)、営業利益は45百万円(対前年同期比1億95百万円減)となりました。

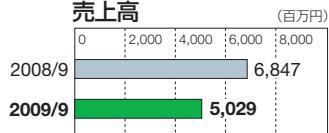


高純度金属ヒ素

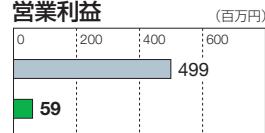
ガリウムリン多結晶



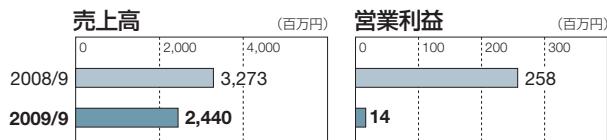
### 売上高



### 営業利益



### 化成品事業



化成品事業では、船底塗料の防汚剤として使用されている亜酸化銅が、主原料の品不足により生産量見合いの販売となったことなどにより、売上高は24億40百万円(対前年同期比8億32百万円減)、営業利益は14百万円(対前年同期比2億44百万円減)となりました。



船底塗料防汚剤に  
亜酸化銅使用

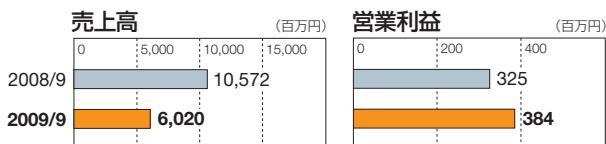
亜酸化銅



## 不動産・燃料その他



不動産・燃料その他の部門の売上高は60億20百万円(対前年同期比45億52百万円減)、営業利益は3億84百万円(前年同期比58百万円増)となりました。



不動産事業では、オフィスビルの賃貸市況で厳しい状況が続き、賃貸ビルの主力である大阪ビルにおいてもテナントの退去や貸室面積の減少による空室率の上昇を余儀なくされました。

燃料事業では、産業用燃料の出荷が乏しい中、回収の確実性に留意した営業に努めた結果、減収となりました。

### 株式会社トウペ株式に対する公開買付けの開始及び第三者割当増資の引受けについて

当社は、2009年11月12日開催の取締役会において、持分法適用関連会社である株式会社トウペ(東証・大証一部、塗料・化成品メーカー)について、連結子会社化を目的として、同社の普通株式を公開買付けにより取得すること(上限650万株、総額578百万円、期間：2009年11月13日～2009年12月16日)及び同社の第三者割当増資を引受けすること(500万株、総額445百万円、払込期日：2009年12月1日)を決議いたしました。



## 高純度金属ヒ素

銅鉱石の製錬過程で生まれたIT・エレクトロニクスの進化を支えるキーテクノロジー

当社は、銅山経営で培った技術を時代の要請に応じて進化させ、市場で大きなシェアを占める製品を生み出してきました。そんな技術や製品のルーツを探るこのコーナーの2回目は、ガリウムヒ素半導体の原料としてIT・エレクトロニクスの進化を支える「高純度金属ヒ素」を紹介します。

### ■ 半導体材料としてヒ素を有効利用

銅鉱石を製錬すると、希少金属などの副産物が発生します。ヒ素もその一つで、当社は大正時代初期に、煙灰からヒ素を回収する技術を確立しました。当時、ヒ素はガラスの消泡剤や農薬などに利用されていましたが、当社はその用途開拓を積極的に続けてきました。高度成長期に入ると、ヒ素が半導体材料として注目されるようになったことから、1961年に高純度金属ヒ素の開発に着手、翌年には純度99.999%の高純度金属ヒ素の販売を開始しました。現在では、IT機器やLEDなどに使われるガリウムヒ素半導体の原料として、純度99.999995%の高純度金属ヒ素を国内で唯一製造し、世界トップのシェアを有しています。

高純度金属ヒ素 → 原料 → ガリウムヒ素半導体

ガリウムヒ素半導体の用途例

- BS-TV、携帯電話などの高周波電子デバイス
- 信号機や車のストップランプに用いられるLED
- CDやDVDのピックアップレーザーダイオード

# 産業・社会の基盤づくりを支える「ロックドリル」

## 世界中でインフラ整備や資源開発に貢献

ロックドリル(さく岩機)とは、岩盤にダイナマイト装填用の穴をあけたり、岩石・コンクリートなどを砕いたりする機械の総称。鉱山での資源採掘や、道路や建築構造物などのインフラ整備の現場で広く用いられています。当社ではロックドリル製品の製造・販売を通じて、国内外のインフラ整備や資源開発を支えています。

当事業の特長は、銅山採掘を通して培ったさく岩技術と、顧客

ニーズに応える製品のカスタマイズ、充実したメンテナンスをはじめとする「顧客重視」のサービスにあります。その高い技術力を活かし、販売・サポートを世界規模で確立するために、代理店教育にも力を入れて取り組んでいます。また、製品・技術の認知度を上げるべく、世界各地の展示会にも積極的に出展しています。

### ■ 主なロックドリル製品の用途

#### 資源開発 産業の発展を支援



##### 鉱山開発 (露天掘り)

露天掘り鉱山で、地表からの鉱物採掘にダウンザホールドリルを使用



##### 鉱山開発 (坑内掘り)

坑道の掘削、坑道内からの鉱物採掘などに鉱山用ドリルジャンボを使用

#### インフラ整備 安全・便利な都市計画に貢献



##### ビル解体

建造物の解体現場で、コンクリートの破碎に圧碎機を使用



##### トンネル掘削

山岳トンネル工事の岩盤掘削にトンネルドリルジャンボを使用

##### 道路整備など\*

整地作業などで、固い地面や岩盤の破碎に油圧ブレーカを使用



##### 砕石\*

砕石現場などでの岩盤破碎にクローラドリルを使用



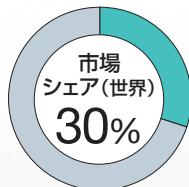
\* クローラドリルや油圧ブレーカは、鉱山開発の現場でも活用されています

## シェアは業界トップレベル

当社グループは、ロックドリルを製造する世界三大メーカーの一社として業界をリードしています。例えば、優れた耐久性や破砕力、高い作業効率などが評価されている「油圧ブレーカ」、「油圧クローラドリル」は、世界規模の販売・サービス網によって、世界トップレベルのシェアを維持。また、道路や鉄道の山岳トンネル工事で多くの実績がある「トンネルドリルジャンボ」は、国内シェアNo.1となっています。



油圧ブレーカ



油圧ショベルなどに装着され、岩盤の掘削やコンクリートの破砕などに使用。近年では環境配慮型の「超低騒音ブレーカ」もラインナップ。



油圧クローラドリル



岩盤にダイナマイト装填用の下向きの穴をあける自走式機械で、鉱山・採石場、土木・建築現場などで使用。



トンネルドリルジャンボ



トンネル掘削現場で、岩盤にダイナマイトを装填する穴をあけるのに使用。

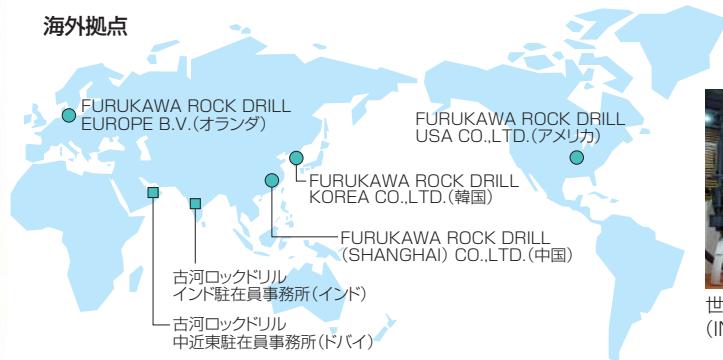
## C O L U M N

### 顧客重視の営業・サポートで海外売上のさらなる拡大を目指す

インフラ整備・更新や鉱山開発など社会と産業の基幹部を支えるロックドリル製品は、国や地域を問わず世界中で利用されており、その需要は今後も伸長していくものと予想されています。

当社グループは、そうした需要を確実に捉えて、製品の売上をさらに拡大していくために、欧米や中国、中近東、アジアなど世界各地において、「顧客重視」の営業・サポートを展開しています。

#### 海外拠点



世界三大建機展に出展 (INTERMAT2009)



世界代理店会議を開催

## 連結決算の概要

### 連結貸借対照表(要旨)

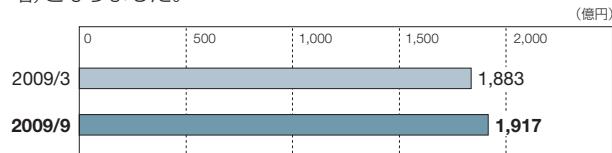
(単位:百万円)

区 分	前連結会計 年度末 2009年3月31日現在	当第2四半期 連結会計期間末 2009年9月30日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産	77,509	77,765
固定資産	110,851	114,013
有形固定資産	84,082	83,511
無形固定資産	211	226
投資その他の資産	26,557	30,275
<b>① 資産合計</b>	<b>188,361</b>	<b>191,779</b>
<b>負債の部</b>		
流動負債	64,275	62,007
固定負債	78,343	80,781
<b>② 負債合計</b>	<b>142,619</b>	<b>142,789</b>
<b>純資産の部</b>		
株主資本	44,551	43,219
資本金	28,208	28,208
利益剰余金	16,386	15,056
自己株式	△43	△44
評価・換算差額等	33	4,584
少数株主持分	1,156	1,185
<b>③ 純資産合計</b>	<b>45,742</b>	<b>48,989</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>188,361</b>	<b>191,779</b>

### 貸借対照表のポイント

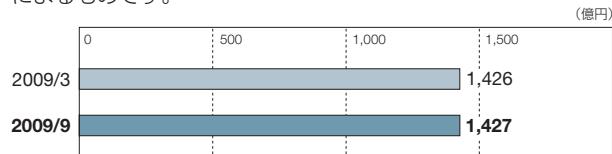
#### Point① 総資産 1,917億円

主として株価上昇による投資有価証券の増加により、総資産は1,917億79百万円(前連結会計年度末と比べ34億18百万円増)となりました。



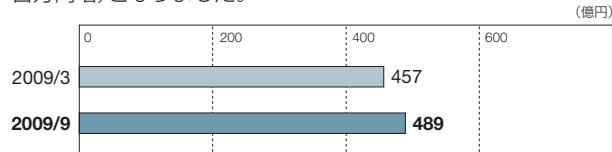
#### Point② 負債 1,427億円

負債は1,427億89百万円(前連結会計年度末と比べ1億70百万円増)となりました。有利子負債(借入金)については941億92百万円(前連結会計年度末と比べ17億17百万円増)となりましたが、これは第3・第4四半期予定の借入を前倒したことによるものです。



#### Point③ 純資産 489億円

株価上昇による、その他有価証券評価差額金の増加などにより、純資産は489億89百万円(前連結会計年度末と比べ32億47百万円増)となりました。



## 連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

区 分	前第2四半期 連結累計期間 (2008年4月1日～ 2008年9月30日)	当第2四半期 連結累計期間 (2009年4月1日～ 2009年9月30日)
① 売上高	103,157	61,378
売上原価	89,230	55,086
売上総利益	13,927	6,292
販売費及び一般管理費	8,771	6,797
② 営業利益又は営業損失(△)	5,155	△504
営業外収益	765	777
営業外費用	1,581	1,407
③ 経常利益又は経常損失(△)	4,339	△1,134
特別利益	2,596	29
特別損失	3,362	280
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	3,573	△1,385
法人税、住民税及び事業税	479	106
法人税等調整額	1,487	△682
少数株主利益	46	29
④ 四半期純利益又は四半期純損失(△)	1,560	△839

## 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

区 分	前第2四半期 連結累計期間 (2008年4月1日～ 2008年9月30日)	当第2四半期 連結累計期間 (2009年4月1日～ 2009年9月30日)
① 営業活動によるキャッシュ・フロー	6,548	2,741
② 投資活動によるキャッシュ・フロー	3,514	△1,464
③ 財務活動によるキャッシュ・フロー	△7,393	984
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△107	306
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	2,561	2,566
現金及び現金同等物の 期首残高	14,547	19,343
現金及び現金同等物の 四半期末残高	17,108	21,910

## 損益計算書のポイント

### Point① 売上高 613億円

機械・金属部門で大きく減収となったことなどから、売上高は613億78百万円(対前年同期比417億79百万円減)となりました。

### Point② 営業利益又は営業損失(△) △5億円

工場操業度の低下により機械部門で大きく採算が悪化し、営業損失は5億4百万円(前年同期は51億55百万円の利益)となりました。

### Point③ 経常利益又は経常損失(△) △11億円

営業利益の低下により、経常損失は11億34百万円(前年同期は43億39百万円の利益)となりました。

### Point④ 四半期純利益又は四半期純損失(△) △8億円

主に、特別利益に固定資産売却益29百万円、特別損失に減損損失2億2百万円、固定資産除売却損73百万円を計上した結果、四半期純損失は8億39百万円(前年同期は15億60百万円の利益)となりました。

## キャッシュ・フロー計算書のポイント

### Point① 営業活動によるキャッシュ・フロー 27億円の純収入

たな卸資産の増加などによる支出増から、営業活動によるキャッシュ・フローは対前年同期比38億6百万円のキャッシュ減となりました。

### Point② 投資活動によるキャッシュ・フロー 14億円の純支出

有形固定資産の売却による収入の減少などから、投資活動によるキャッシュ・フローは対前年同期比49億79百万円のキャッシュ減となりました。

### Point③ 財務活動によるキャッシュ・フロー 9億円の純収入

長期借入金による収入の増加などから、財務活動によるキャッシュ・フローは対前年同期比83億77百万円のキャッシュ増となりました。

TOPICS

## クレーン新製品を次々と発売、ラインナップを拡充

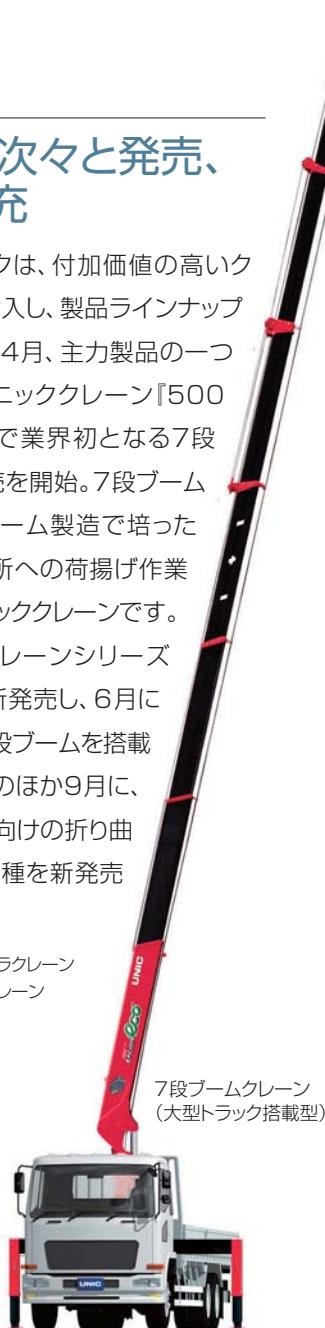
当社グループの古河ユニックは、付加価値の高いクレーン新製品を積極的に市場投入し、製品ラインナップの充実を図りました。2009年4月、主力製品のひとつである大型トラック架装用ユニッククレーン『500シリーズ』に、搭載型クレーンで業界初となる7段ブームを搭載した新機種の販売を開始。7段ブームクレーンは、これまでの長尺ブーム製造で培ったノウハウをもとに、より高い場所への荷揚げ作業を可能にするよう開発したユニッククレーンです。また、5月にはミニクローラクレーンシリーズでミドルクラス※1の3機種を新発売し、6月には同シリーズにクラス※2初の7段ブームを搭載した新機種を追加しました。このほか9月に、スクラップ・産業廃棄物処理業向けの折り曲げ式クレーンで高耐久型の2機種を新発売しています。

※1 吊上げ荷重1.7～2.4トンのミニクローラクレーン

※2 吊上げ荷重3トン未満のミニクローラクレーン



折り曲げ式クレーン



7段ブームクレーン  
(大型トラック搭載型)

INFORMATION

## 「5分でわかる! 古河機械金属」 ～ 当社の製品と歴史をウェブサイトで紹介

当社のウェブサイトに、当事業を簡単にご理解いただけるよう「5分でわかる! 古河機械金属」を掲載しています。産業の基盤や人々の生活を支える当社の主要製品を紹介する「製品編」、銅山経営から我が国の産業発展に貢献してきた歴史を紹介する「歴史編」の2部構成で、大きな写真やイラストをふんだんに使用し、わかりやすく工夫していますので、ぜひご覧ください。

<http://www.furukawakk.co.jp>



古河機械金属  
トップページ

ここをクリック



時代背景に沿って  
当社の事業を  
読み解く「歴史編」

「5分でわかる! 古河機械金属」

当社製品の種類と  
用途をわかりやすく  
説明する「製品編」



# 会社概要及び株式の状況 (2009年9月30日現在)

## 会社概要

古河機械金属株式会社 FURUKAWA CO., LTD.

創業 1875(明治8)年8月  
 設立 1918(大正7)年4月  
 資本金 28,208,182,500円  
 従業員数 2,276名(連結) 197名(単独)

### 主な事業(古河機械金属グループ)

産業機械工業 土木建設業 非鉄金属製錬業 電子材料工業 化学工業  
 不動産業 燃料販売業

### 主な事業所

本社  
 東京都千代田区丸の内二丁目2番3号(丸の内仲通りビル)  
 (03)3212-6570

### 支社・支店・事業所

大阪支社 東北支社 九州支店 札幌支店 名古屋支店 足尾事業所  
 筑豊事務所

### 研究所

技術研究所 素材総合研究所 半導体装置事業室 ナイトライド事業室

### グループ中核事業会社

古河産機システムズ(株) 古河ロッドドリル(株)  
 古河ユニック(株) 古河メタルリソース(株) 古河電子(株)  
 古河ケミカルズ(株) 古河コマース(株)

### 取締役及び監査役

代表取締役社長 相馬 信義  
 専務取締役 塩飽 博以  
 常務取締役 座間 学  
 取締役 古河 潤之助  
 取締役 江本 善仁  
 取締役 中村 晋  
 取締役 松本 敏雄  
 常勤監査役 大沼 良次  
 常勤監査役 宮田 雅文  
 監査役 石原 民樹  
 監査役 友常 信之  
 監査役 佐藤 美樹

### 執行役員

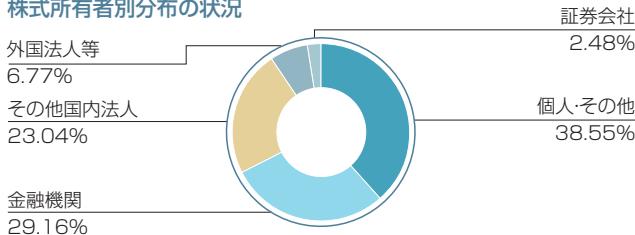
専務執行役員 塩飽 博以  
 常務執行役員 座間 学  
 上級執行役員 江本 善仁  
 上級執行役員 中村 晋  
 上級執行役員 松本 敏雄  
 上級執行役員 中川 敏一  
 上級執行役員 富山 安治  
 上級執行役員 碓井 彰  
 執行役員 宮川 尚久  
 執行役員 幸崎 雅弥  
 執行役員 渡辺 修  
 執行役員 猿橋 三郎  
 執行役員 梅崎 康一郎  
 執行役員 小橋 利幸  
 執行役員 小林 政治  
 執行役員 柳澤 憲博

## 株式の状況

### 株式

発行可能株式総数……………800,000,000株  
 発行済株式の総数……………404,455,680株  
 株主総数……………36,936名

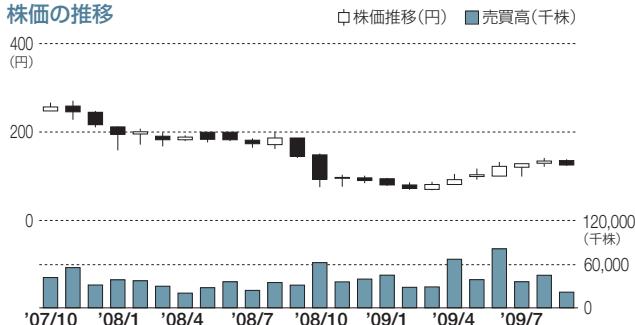
### 株式所有者別分布の状況



### 大株主(上位10名)

株主名	持株数	持株比率
朝日生命保険相互会社	27,923千株	6.90%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	16,618	4.11
清和綜合建物株式会社	15,034	3.72
株式会社損害保険ジャパン	13,810	3.41
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	13,677	3.38
中央不動産株式会社	11,827	2.92
富士通株式会社	9,617	2.38
古河電気工業株式会社	8,777	2.17
富士電機ホールディングス株式会社	8,620	2.13
横浜ゴム株式会社	8,510	2.10

### 株価の推移



## 株主メモ

- **本社**  
東京都千代田区丸の内二丁目2番3号 〒100-8370  
電話 (03)3212-6561(法務部)
- **事業年度の末日** 3月31日
- **定時株主総会** 6月
- **定時株主総会の基準日** 3月31日
- **期末配当の基準日** 3月31日  
中間配当を実施するときの基準日は9月30日
- **公告掲載のホームページ**  
<http://www.furukawakk.co.jp>  
(ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載します。)
- **単元株式数** 1,000株
- **株主名簿管理人**  
東京都港区芝三丁目33番1号  
中央三井信託銀行株式会社
- **同事務取扱所(郵便物送付先及び照会先)**  
東京都杉並区和泉二丁目8番4号 〒168-0063  
中央三井信託銀行株式会社 証券代行部  
電話 (0120)78-2031(フリーダイヤル)  
ホームページ [http://www.chuomitsui.co.jp/person/p\\_06.html](http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html)

## お知らせ

- **住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について**  
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。  
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。
- **未払配当金の支払いについて**  
株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

# FURUKAWA CO.,LTD.

東京都千代田区丸の内二丁目2番3号(丸の内仲通りビル)  
電話 (03)3212-6570  
<http://www.furukawakk.co.jp>

